



のっぽの手



2010年度総会開催のお知らせ

“ふくサポ” チェンバへ移転

2009年度元気助成金活動報告

新しい活動期を迎えて

ふくしま NPO ネットワークセンター副理事長 星野 珉二



ふくしま NPO ネットワークセンターも6月から新しい年度の活動に入った。設立から12年目の活動期となる。これを機に、いくつか課題などを思いつくまま述べてみたい。

市民活動サポートセンター（通称：ふくサポ）がチェンバおおまちへ引越しし、利用スペースも格段に広がった。とくに、念願の会議室も確保できた。まずは、このサポセンの利用実績を積み上げ、市民活動を盛り立てていくことが大きな課題であろう。これに対しては、サポセンの職員の皆さんも頑張っているし、理事のサポセン運営チームもそれなりに機能してきている。しかし、今回の利用の質・量含めた新サポセンのバージョンアップには、ふくしま NPO ネットワークセンター挙げての取組みが必要と思われる。理事、職員、会員の皆さんも含むセンターあげての知恵の出どころを迎えている。

認定 NPO を取得したことをきっかけに「ふくしま元気市民活動助成」事業も順調に船出をし、市民の評価も得られつつある。しかしながら、当該事業のさらなる定着・発展のためには、助成金の金額も含め規模を拡大してインパクトのある事業にしていかなければならないであろう。

会議室が最大7室の利用が可能なふくサポ

↓ 団体登録すれば使用料は無料です



新たなスタート！
→
チェンバおおまち3階に移転したふくサポ



これまでの情報ステーションで培ったノウハウは貴重であり、たとえば「まちの駅」などまちづくりのための横展開できる事業の可能性も真剣に検討する時期であろう。当然のことながら、そこに当センターのミッションをさりげなく埋め込めるようにすべきであろう。

さらには、これまで中間支援組織としての活動を積み重ねてきたが、自主事業で収益を上げていくことの難しさを痛感させられている。しかし、金額は僅かであっても、一步一步前向きな努力を粘り強くしていく必要がある。

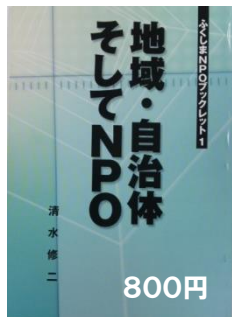
そのほか、いうまでもないことであるが、中間支援組織であるがゆえに、会員、地域内の NPO、他地域の NPO との情報交流を活発にしていける必要がある。

H21年度は利用者が 39,000 人を超えました！

ふくしま情報ステーション(コラッセふくしま1階) ↓

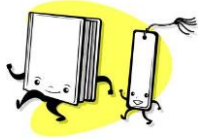


ブックレット紹介



↑「地域・自治体
そしてNPO」
800円

ネットワークセンターは、中間支援をテーマにブックレットを発行しています。市民活動の発展の一助になれば幸いです。



「ふくしま県北市民活動」
ガイドブック →



スタッフ紹介

3月より福島市市民活動サポートセンターの職員となりました内山愛美と申します。昨年、9月よりふくサポのお手伝いをさせていただいておりましたので、お会いしたことのある皆様もいらっしやると思います。明朗活発、大胆おおざっぱなO型。持ち前のバイタリティーで頑張ってますので、よろしくお願いします。



(^o^) 内山さんはプロの司会としても活躍中。彼女の気配りは数々のイベントで培ってきたものです。新しくなったふくサポをさらに元気にしてくれることを期待します。(事務局)

NPOとお金の話 ～ 第57回NPO研究会印象記 ～

ふくしまNPOネットワークセンター理事 牧田 実

NPOの活動や運営に「お金」はつきものなのですが、私をはじめ、どうもお金の話は苦手で、と尻込みしている人は多いのではないのでしょうか。ふくサポが主催する会計講座が毎年盛況なのも、そんな必要に迫られた人たちの駆け込み寺になっているということなのでしょう。

さて、第57回NPO研究会は、「NPOバンクとFNB（ふくしまNPOバンク）」をテーマに当センター副理事長の星野珠二さんに話題提供をしていただきました。星野さんは、一般社団法人ふくしまNPOバンクの理事でもあり、NPOバンクの設立と運営のいわば当事者としての経験をふまえて、金融NPOの意義・特徴やふくしまNPOバンクのしくみなどについてわかりやすく説明していただきました。

とはいえ、こと「金融」の話ですから、限られた紙幅でその内容を紹介するのは難しい……(涙)。要するに、NPO（法人）を対象に、運転、設備、つなぎ資金などを低利で融資するのがNPOバンクなのですが、今回立ち上がったふくしまNPOバンクは、福島県商工信用組合（けんしん）と提携し、「ふくしまNPO元気支援ローン」の融資にあたっての審査と保証をもっぱら請け負うところに特徴があるということですよ（そして、NPO法

人うつくしまNPOネットワークが借入れや返済についての相談に乗るということになっているようです）。

ふくしまNPOバンクは社団法人だし、これってホントにNPOバンク？と思わないでもないのですが、幸いにして行政の補助金を得られることになったとしても、実際にお金がおりてくるのは事業が終わってからなんていうこともままあるこの世界（こうした理不尽な補助金のありかたの改善を行政に強く求めていくのも私たち中間支援NPOの仕事だと思いますが）、いまのところつなぎ資金としての利用がほとんどであるということでした。

なお、フロアの金融関係者から「営利事業に融資するのが金融機関のビジネスであり、そもそも非営利事業に融資するという発想もノウハウもこれまでの金融機関にはなかった」という発言がありましたが、妙に納得するとともに、少しずつ時代はNPOへと動いてきたのだと実感した次第。とはいえ、一方で、私たちが中間支援NPOとしてどこまでNPOバンク的なものに関われるのかは、その力量からからしてもなかなか微妙であると感じたことも事実です。





大きな拍手に**元気と勇気**








原國雄とその仲間たち代表 **原 國雄**

ふくしま元気市民活動助成金事業として平成22年5月30日標記仲間たちの朗読会を福島市の県立図書館講堂で開催しました。5月最後の日曜日、しかも好天の行楽日和にもかかわらず、立ち見が出るほどの盛況で、観客は約250名、改めて朗読に対する関心の高さを実感しました。「再生」をテーマに6作品を選びました。今回の目玉は藤沢周平の時代小説「驟り雨」。藤沢周平はとにかく飛びぬけてファンが多く、それだけに読み手は尻ごみしがちです。私達のグループは現役やOBのプロの**アナウンサー**のグループですが、時代小説に取り組むのは初めてです。「嘉吉」という盗人がふとした母子との出会いから“再生”を予感させるエンディングを観客の皆様から聞いていただきたくて演目に入れました。

6人の読み手がそれぞれの人物に扮し、物語を展開します。時代物のセリフ回し等戸惑いもありましたが、表現力には自信のある顔ぶれ。やくざや女形の若旦那、子役から病身の母親役まで見事に演じきってくれました。観客の皆様からも好評で、「とても聞きごたえがあり、家に帰って本が読みたくなりました」など多数の感想をいただきました。

一番うれしいご意見です。ほとんどの方が席を立つことなく最後まで熱心に朗読を聞いていただいたこと、また身に余る大きな拍手をいただき次回朗読会に取り組む**元気と勇気**が湧いてきました。終わりにご支援いただいた「ふくしまNPOネットワークセンター」、また共催の福島県立図書館に改めてお礼と**感謝**を申し上げます。

【2009 年度ふくしま元気市民活動助成金事業認定事業】

-  原國雄とその仲間たちの朗読会／原國雄と愉快的仲間たち
-  美しい自然環境を次世代へ／ふるさとの川 荒川づくり協議会
-  花の隈半づくり／特定非営利活動法人 御倉町かいわいまちづくり協議会
-  I LOVE いいざか元気フィルム活性化事業／特定非営利活動法人 いいざかサポーターズクラブ
-  ルワンダ教育支援のための寄付金募金用チラシ作成／特定非営利活動法人 ルワンダの教育を考える会



「2010年度ふくしま元気市民活動助成金」対象候補事業の最終審査会

～ 市民審査員によるプレゼンテーション参加のごあんない ～

と き 7月11日(日) 13:00開始
会 場 コラッセふくしま 4F 多目的ホール
参加団体 福島 れんげの会
 「パフォーマンス・アート イン福島」実行委員会
 市民ミュージカル「人類の破片」上演実行委員会
 特定非営利活動法人 陽だまりハウス
 福島市レクリエーション協会
 あら！福島の会
 特定非営利活動法人 ふくしま60



←くわしくはHPをご覧ください。

<http://www.f-npo.jp/>

※審査は会場のパソコンで簡単に投票できます。

**皆さんのご参加
お待ちしております！**

↓市民審査員の参加申し込み

http://www.f-npo.jp/josei/2010shinsa_bosyu.doc

＜お申し込みはふくしまNPOネットワークセンターまで＞



2009 年度の助成金対象事業の報告会を同時開催いたします。

ふくしま情報ステーション 〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま1階 TEL 024-522-4020 FAX 024-525-4027

URL:<http://www.machi-fukushima.jp/> E-mail info@fukushima.jp



粋な NPO

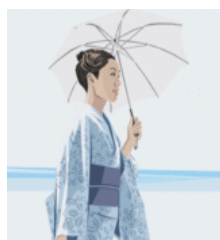
ふくしま NPO ネットワークセンター 常務理事 齋藤美佐



通勤の通り道に呉服屋さんがあります。ショーウィンドには季節感のあるきものが飾られ、いつも目を楽しませてくれています。数日前にきものが衣替えをしました。昨年の夏は白地の「紗」だったのを覚えていますが、今年は黒いきものでした。

夏のきものは6月に「絹」、7月には「羅」、そして盛夏の8月には「紗」という織物になります。9月になると絹や紬などの一重のきものを身につけ、寒さに並行して裏地のついた「袷」になります。衣替えしたショーウィンドの衣桁には、ハツとするほどの黒色の「絹」の着物が堂々と飾られていました。夏には白っぽいものを身につけがちですが、夏の黒というのは不意を着かれた感じで、粋なものだと感心しました。

日本の黒色には「黒色」「漆黒」「墨色」「蠟色」などがあります。最近「吸い込まれるほどの黒の画面」をテーマに黒を追求して、発色を際立たせた薄型テレビが大型店で注目を集めていたり、黒の



綿棒など日用雑貨が注目されています。黒いからこそ目に見えてくるものがあり、その存在を確認させてくれる立役者でもあります。

その代表的なものである「黒子」は、舞台進行の介添えをする重要な人、表に出ないで物事を処理する人などといわれ、「黒」は脇役や縁の下の力持ちとして日本で愛されてきました。

朝、呉服屋さんを通るたびに、潔いほどの「黒」を眺めては「NPOの色は“黒”なのかも」と考えました。社会の主役である「そこに暮らす人々」が穏やかで平和な暮らしが営めるように、私たちは日々奮闘しています。それは“社会により添う黒子”であり、“幸せを際立たせるためにピュアな社会貢献の精神”を胸に抱いた脇役ともいえ、周囲を引き立たせる「黒」にどこか似ているように思います。

まだまだNPOへの理解が形成されていない厳しい環境の現状があっても、盛夏の中で黒の紗を纏い、白帯をキュッと締めて颯爽と歩くような、そんな粋なNPOになりたいものです。

お知らせ

総会のお知らせ

2010年度 ふくしま NPO ネットワークセンター 通常総会を下記のとおり開催いたします。

とき 2010年7月17日(土) 13:30~14:50

会場 福島市市民活動サポートセンター (チェンバおおまち3F)

パネルディスカッション同時開催

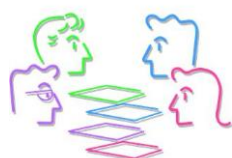
総会終了後、NPOの現状をとらえ、皆さんとともにこれからのNPOの発展性を探ります。

とき 2010年7月17日(土) 15:00~16:30

会場 福島市市民活動サポートセンター (チェンバおおまち3F)

テーマ 『こちら NPO★応答願います』 ※パネリストは3団体予定
~ NPOの現場がつなぐもの ~ ※コーディネーター 牧田実理事

※参加無料。お気軽にご参加ください。



梅雨らしいお天気が続いておりますが、体調などくずい
ておりませんか。地下
だと気温がわかりません。
まだ暖房入れています。(S)

情報ステーションは年末年始を
除く 359日無休です。曜日
の感覚をなくした私は、
ゴミ袋を手にした夫を見てゴ
ミの日に気づく生活です。(M)

編集後記

発行: ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル
TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218

E-mail center@f-npo.jp

URL <http://www.f-npo.jp/>

